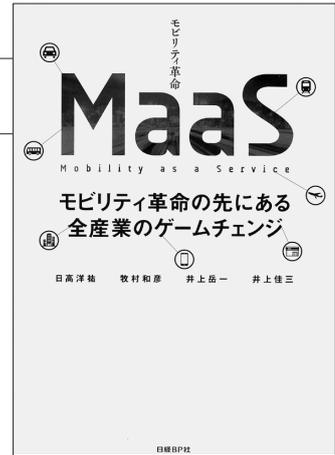


日高洋祐・牧村和彦・井上岳一・井上佳三=著

# MaaS

## モビリティ革命の先にある全産業のゲームチェンジ



2018年11月発行  
 本体2,000円+税  
 日経BP社  
 ISBN 978-4-296-10007-1

原田 昇  
 HARATA, Noboru

東京大学大学院工学系研究科教授

この本は、MaaS (Mobility as a Service) の実践を検討している若手の騎士四名 (日高洋祐, 牧村和彦, 井上岳一, 井上佳三) が、世界的に進むMaaSの議論と実践を踏まえて、MaaSの「本質」を事例とともに解説し、その「先」にある交通、社会、ならびに全産業のビジネスモデルの変革を論じたものである。世界にやや遅れてMaaSへの取り組みが進んでいる我が国において、MaaSに取り組むあらゆる人たちに、そして、その社会的影響に関心のある人たちに、役立つ内容となっている。

MaaSの「本質」は、「マイカーという魅力的な移動手段と同等か、それ以上に魅力的なモビリティサービスを提供し、持続可能な社会を構築していくという全く新しい価値観やライフスタイルを創出していく概念である」としている。システム的には、「利用者視点に立って複数の交通サービスを組み合わせ、それらがスマホアプリ一つでルート検索から予約、決済まで完了し、シームレスな移動体験を実現する取り組み」としている。潜在的なビジネスモデルと様々なステークホルダーの存在が挙げられるが、基本的には、サービスを担うプレーヤーとインフラを担うプレーヤーで構成され、サービスを担うプレーヤーには、本文の図1-5に示されるように、「MaaSオペレーター」と「モビリティサービス事業者」がある。本書の特徴の一つは、「MaaSオペレーター」の分かりやすい説明である。自動車メーカー、鉄道・交通オペレーター、配車サービス、自治体、通信サービス、ナビゲーション・地図に整理し、具体例を簡潔に説明している。

その「先」にあるビジネスモデルの変革を取り上げて整理した点も、我が国では初めての試みである。「プラットフォーム戦略としてのMaaS」の章では、ソフト提供サービスに特有な「小さく始めて改良しながら網羅性のあるサービスにしていく方式」が、MaaSレベルに合わせてどう展開されるかを説明し、日

本におけるMaaSプラットフォームの在り方を提示する。「テクノロジー戦略としてのMaaS」の章では、システムの全体像、交通系APIの進化のポイント、決済・個人認証APIの考え方を説明し、利用者やモビリティ全体をパーソナルかつ都市全体として制御するような「MaaSコントローラー」の出現を予想し、都市交通を統べる「MaaSコントローラー」にできることを提示している。評者は、「MaaSコントローラー」が機能するためには、そのためのビジョンとそれに関する合意が必要であり、まちづくりと関連付けて自治体が大きくかわることが重要と考えているが、本書は、「MaaSで実現する近未来のスマートシティ」として、MaaSによって普及する新しいモビリティサービスが都市全体に与える影響や先進事例を整理しており、都市のあるべき姿を論じる基礎を提供している。そして、ここで終わりせず、その「先」にあるビジネスモデルを論じている。本文図8-2にまとめられているが、自動車業界、公共交通業界はどう生きるべきかに加えて、エネルギー、保険サービス、金融・FinTech、不動産、観光業、小売り・コンビニ、エンタメ、医療・介護・保育との融合で生まれる新ビジネスのアイデアを提示している。終章『「日本版MaaS」に向けて』では、これまで解説してきたモビリティ革命「MaaS」によって、日本がとるべきアクションプランを紹介している。

本書は、「個人の生活は低コストでスマートに」、そして、「日本のさまざまな地域の社会問題を解決」する「日本型MaaS」を実現していくという強い意志が伝わってくる力作である。モビリティ革命のチャンスを活かして我が国の社会を変革していく方向性を論じたものであり、様々な分野にビジネスチャンスをもたらすことも提示している。MaaSを代表とするモビリティ革命に関わろうとしている人たちに有益な内容を含んでいる。是非、一読されるとともに、著者らの動向に着目されることを推奨する。